

ウェブトレーニングセミナー:微生物プロファイル解析編

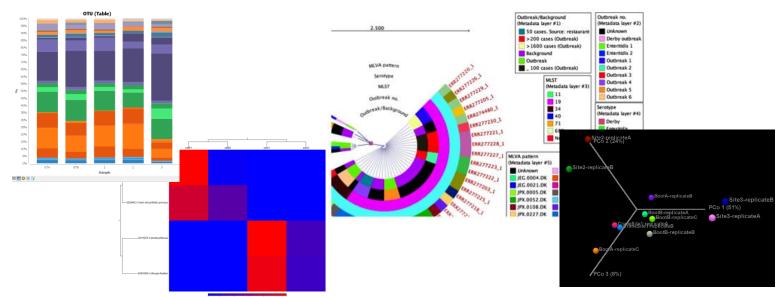
フィルジェン株式会社 バイオサイエンス部 (biosupport@filgen.jp)



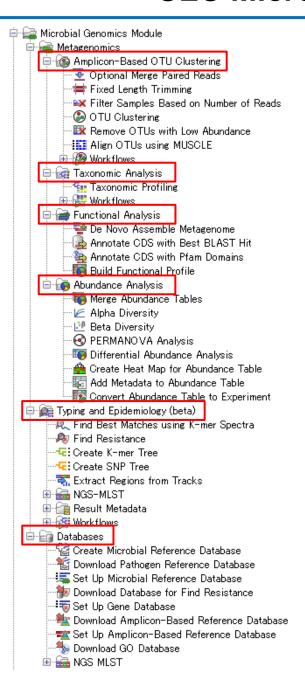
- CLC bio(QIAGEN社)Workbenchシリーズの微生物ゲノム解析用プラグイン
- ▶ 16S rRNAやショットガンメタゲノムデータを用いた菌種組成解析と、病原菌のタイピン グや疫学解析ツール、遺伝子機能解析ツールが利用可能になる



- CLC bio Workbench上のデータを、そのまま解析に用いることが可能
- 解析パイプラインのワークフローが最初から組み込まれており、簡単な操作で解析を行う ことができる
- バクテリアやウイルスなど、解析に使用するリファレンスゲノムデータなども、専用ツールから 簡単にダウンロードが可能







使用可能になるツール群

#### **Amplicon-Based OTU Clustering**

16S rRNAなどアンプリコンシークエンスデータの各種QCチェックおよびOTUクラスタリング による菌種組成解析

#### **Taxonomic Analysis**

• ショットガンメタゲノムデータを用いた、宿主ゲノム配列データの除去および菌種組成解析

#### Functional Analysis (別途有償プラグイン「MetaGeneMark」が必要)

- メタゲノムシークエンスデータのDe Novoアセンブル
- BLAST検索、Pfamドメイン検索による遺伝子機能アノテーション付けと組成解析

#### **Abundance Analysis**

- 菌種組成データからのa多様性とβ多様性の計算
- 菌種または遺伝子機能組成データからの、サンプル間比較やヒートマップ作成

#### Typing and Epidemiology(ベータ版)

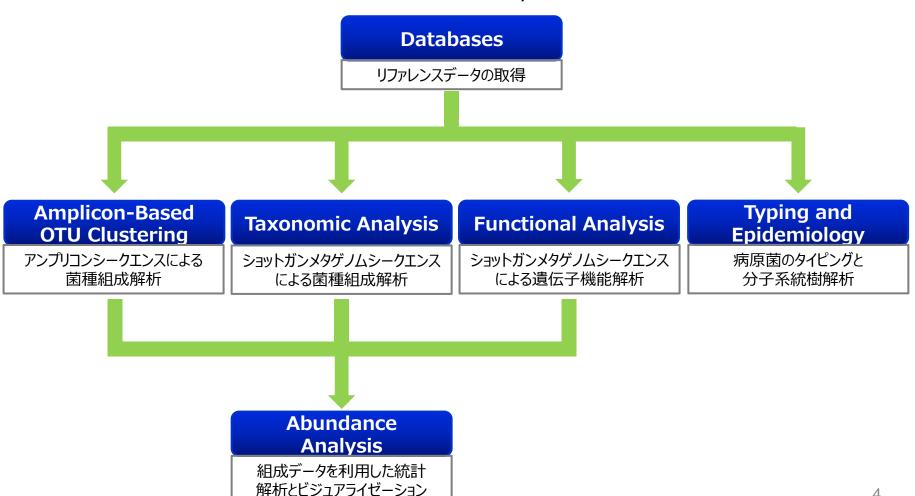
- NGS-MLST (Multi Locus Sequence Typing) 解析による病原菌のタイピングおよび薬剤耐性の確認
- K-mer Treeによる複数菌種のゲノム配列の類似度の比較
- SNP Treeによる分子系統樹の作成

#### **Databases**

- NCBIからの、バクテリアやウイルスなどのゲノム配列データの一括ダウンロード
- Greengenes, SILVA, UNITEなどのOTU配列データ、MLSTスキーマや薬剤耐性 遺伝子配列データのダウンロード
- カスタムデータからのデータベース作成



- どのアプリケーションを使用する場合も、最初にDatabasesツールでリファレンスデータの取得が必要
- 「Amplicon-Based OTU Clustering」「Taxonomic Analysis」「Functional Analysis」で は、解析結果のデータを使用し、「Abundance Analysis」による2次解析が可能



## 本日の内容



## 微生物プロファイル解析

#### **Amplicon-Based OTU Clustering**

- 16S-, 18S-, ITS rRNA配列のDe Novo / Referenceベースの OTUクラスタリング
- Greengenes, Silva, UNITEの菌種分類データベース、またはカスタムデータベースをサポート

#### **Taxonomic Analysis**

- メタゲノムサンプル内の菌種組成の決定
- 宿主ゲノムDNAのコンタミネーションの除去





# 1. Amplicon-Based OTU Clustering

## データ解析の手順



## 手順1: リファレンスデータの取得

● Greengenesなどのリファレンスデータをダウンロード

### 手順2: 1次解析

- リード配列のクオリティチェック(アダプター除去、ペアリードの結合など)
- OTUクラスタリング

### 手順3: 2次解析

● アルファ多様性、ベータ多様性の計算



# 手順1. リファレンスデータの取得

## リファレンスデータの取得



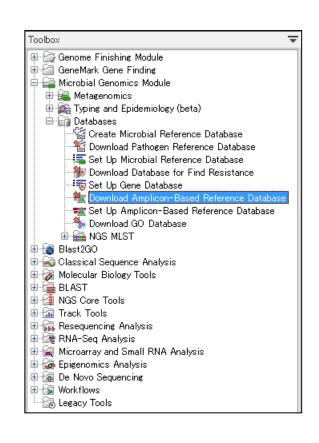
- リファレンスデータとして、データベースのOTU配列データが必要になり、専用のダウンロードツールを使ってダウンロードできる。
- ダウンロードを行う際は、コンピュータがインターネットに接続されている必要がある。

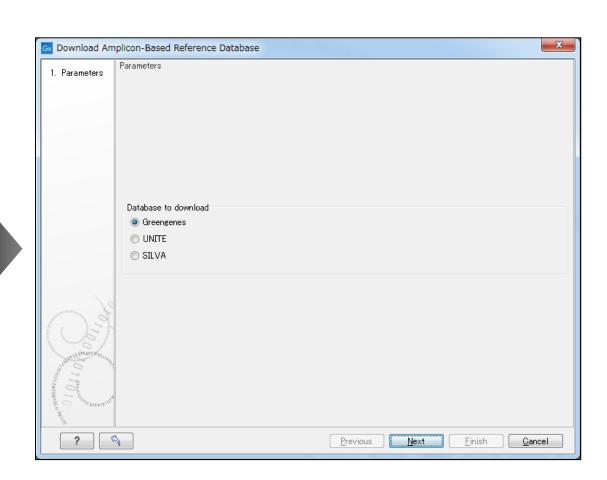
#### 取得できるデータベースの種類

- **Greengenes** (原核生物の16S rRNA配列データ)
- **SILVA** (原核生物と真核生物の、16S/18S rRNA配列データ)
- **UNITE** (ITS spacer配列データ)

# Download Amplicon-Based Reference Database Filgen



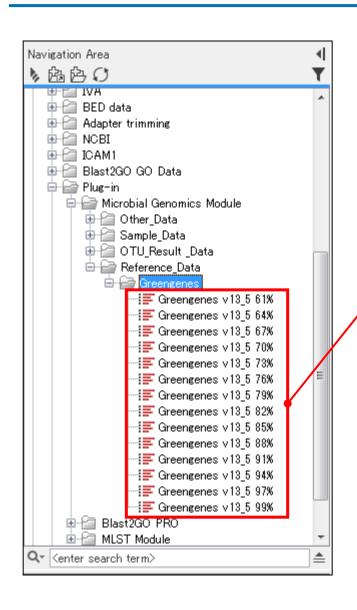




- 1. Download Amplicon-Based Reference Databaseを選択してダブルクリック。
- 2. ダウンロードするデータベースを選択。

# Download Amplicon-Based Reference Database Filgen





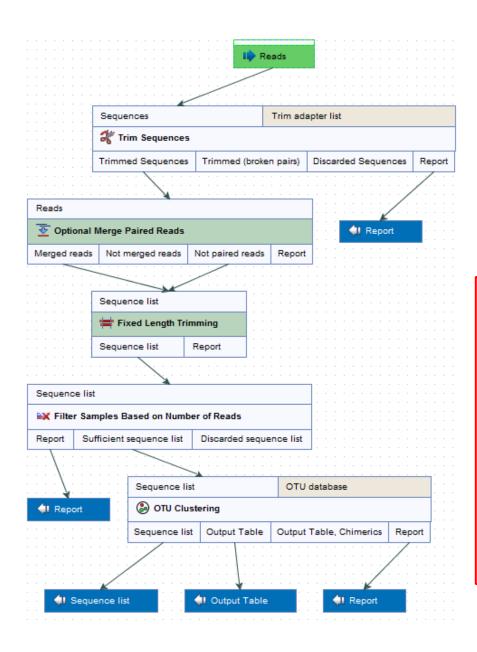
ダウンロードが終了すると、保存先に指定したフォルダ内に、 リファレンスデータが作成される。

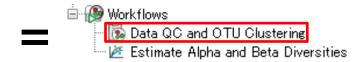


# 手順2. 1次解析

## 1次解析の解析パイプライン







#### **Trim Sequences**

・アダプターの除去、およびリード配列のトリミングを行う

#### **Optional Merge Paired Reads**

・オーバーラップしているペアリード配列の結合を行う

#### **Fixed Length Trimming**

・リード配列の長さを揃える

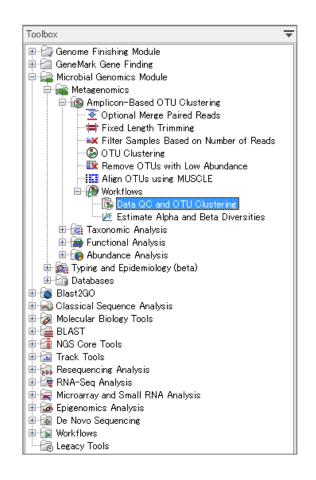
#### **Filter Samples Based on Number of Reads**

・リード配列数の少ないサンプルを除去する

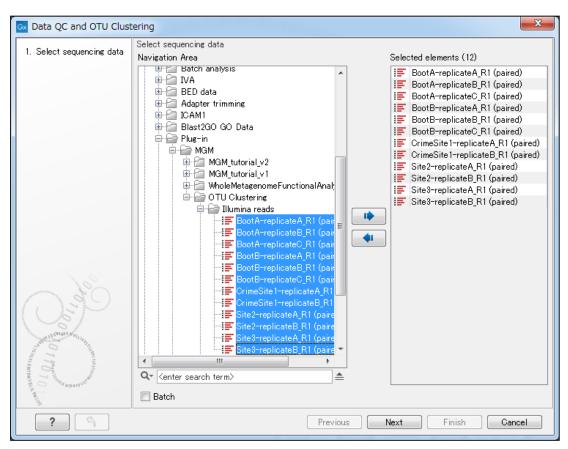
#### **OTU Clustering**

•OTUクラスタリングを行う



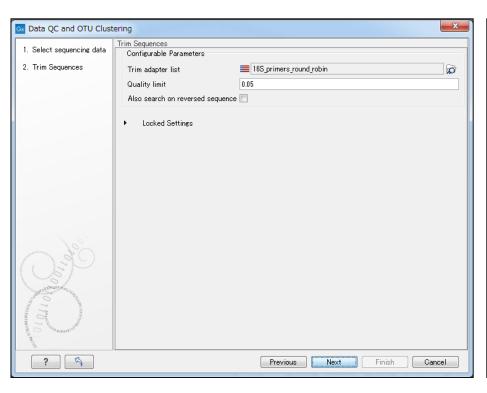


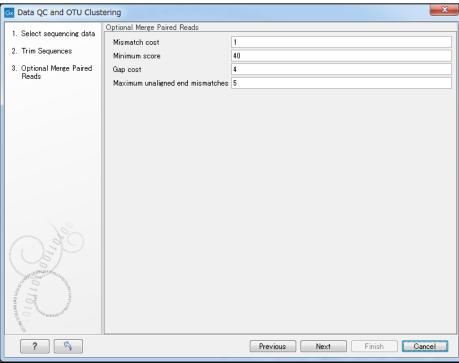




- 1. Data QC and OTU Clusteringを選択してダブルクリック。
- 2. リード配列データを選択。

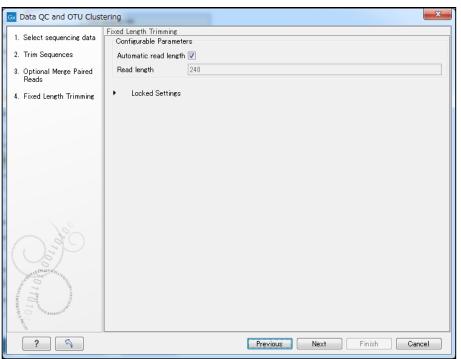


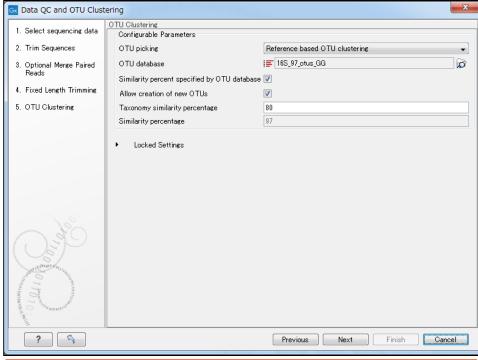




- Trim adapter list: アダプターリストデータを指定する。
- Quality limit: Quality scoreの信頼性の閾値を指定する。
- Also search on reversed sequence: リード配列のアンチセンス鎖からも、アダプターのトリミングを行うかを選択する。
- Mismatch cost: アライメントにマッチしない配列があった場合のコスト。
- Minimum score: リードを結合する場合の最低スコア。
- Gap cost: アライメントにギャップがある場合のコスト。
- <u>Maximum unaligned end mismatches:</u> リード末端において、許容するアライメントされない塩基数の設定。





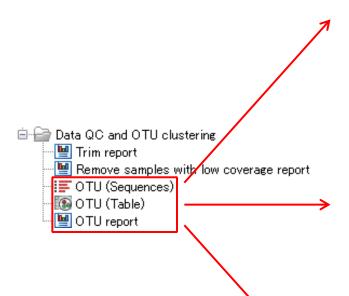


- Automatic read length: インプットデータから自動で決定されたリード配列長に揃える。
- \*別々にインプットしたリード配列データでは、違う長さになることがあります。
- Read length: 任意のリード配列長を指定する。

- ・ <u>OTU picking:</u> OTUクラスタリングの手法を選択する。
- OTU database: リファレンス配列データを指定する。
- <u>Similarity percent specified by OTU database: リファレンス配列データで設定されている相同性の値を使い、OTUクラスタリングを行う。</u>
- <u>Allow creation of new OTUs:</u> OTU databaseにマッチしなかったリード配列から、条件を再設定してOTUクラスタリングを行う。
- <u>Taxonomy similarity percentage</u>: マッチしなかったリード配列を使ってのOTUクラスタリングの相同性を再設定する。
- <u>Similarity percentage:</u> リファレンス配列データで設定されている相同性以外の値を使って、OTUクラスタリングを行う。



計算結果として、以下のデータが 出力される。



### OTU配列データ

<b>≣</b> FOTU (S	Sequences) ×				
		20	40 I	60	80
1109867	TCGAGAAT	TTTTCTCAATGGGGGAAACCC	TGAAGGAGCGACGCCGCGTGG	GGGATGAATGGCTTCGGCC	CGTAAACCCCT
		20 	40 I	60 I	80
1109766	TGGGGAAT	CTTGCACAATGGGCGAAAGCC	TGATGCAGCGACGCCGCGTGG	GGGATGAAGCATTTCGGTG	TGTAAACCCCT
		20 	40 I	60 I	80 
1108954	TGGGGAAT	ATTGCGCAATGGGCGGAAGCC	TGACGCAGCGACGCCGCGTGG	GGGATGAAGGCCTTCGGGT	TGTAAACCCCT
		20 I	40 I	60 I	80 
1108431	TCGAGAAT	TTTTCACAATGGGCGCAAGCC	TGATGGAGCGACGCCGCGTGG	GGGATGAATGGCTTCGGCC	CGTAAACCCCT
		20 	40 I	60 I	80
1108199	TGGGGAAT	TTTGCGCAATGGGGGAAACCC	TGACGCAGCAACGCCGCGTGG	AGGATGAAGTCCCTTGGGA	CGTAAACTCCT

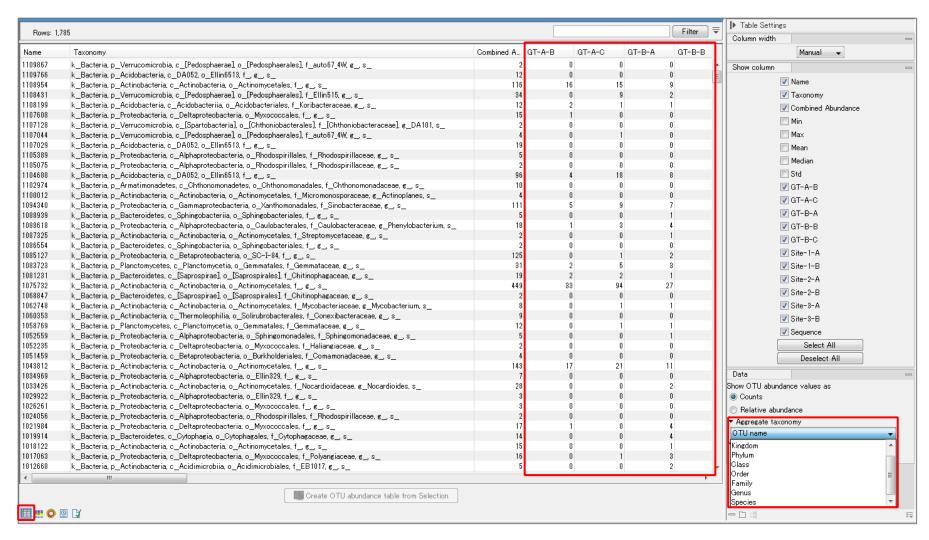
#### OTU組成データ

III OTU (Ta	ble) ×		
Rows: 1,	256		
Name	Taxonomy	Combined A	GT-A-B
1109867	k_Bacteria, p_Verrucomicrobia, c_[Pedosphaerae], o_[Pedosphaerales], f_auto67_4W, g_, s_	2	0
1109766	k_Bacteria, p_Acidobacteria, c_DA052, o_Ellin6513, f_, g_, s_	12	0
1108954	k_Bacteria, p_Actinobacteria, c_Actinobacteria, o_Actinomycetales, f_, g_, s_	116	16
1108431	k_Bacteria, p_Verrucomicrobia, c_[Pedosphaerae], o_[Pedosphaerales], f_Ellin515, g_, s_	34	0
1108199	k_Bacteria, p_Acidobacteria, c_Acidobacteriia, o_Acidobacteriales, f_Koribacteraceae, g_, s_	12	2
1107608	k_Bacteria, p_Proteobacteria, c_Deltaproteobacteria, o_Myxococcales, f_, g_, s_	15	1
1107128	k_Bacteria, p_Verrucomicrobia, c_[Spartobacteria], o_[Chthoniobacterales], f_[Chthoniobacteraceae], g_DA101, s_	2	0
1107044	k_Bacteria, p_Verrucomicrobia, c_[Pedosphaerae], o_[Pedosphaerales], f_auto67_4W, g_, s_	4	0
1107029	k_Bacteria, p_Acidobacteria, c_DA052, o_Ellin6513, f_, g_, s_	19	0
1105389	k_Bacteria, p_Proteobacteria, c_Alphaproteobacteria, o_Rhodospirillales, f_Rhodospirillaceae, g_, s_	5	0

#### レポートデータ

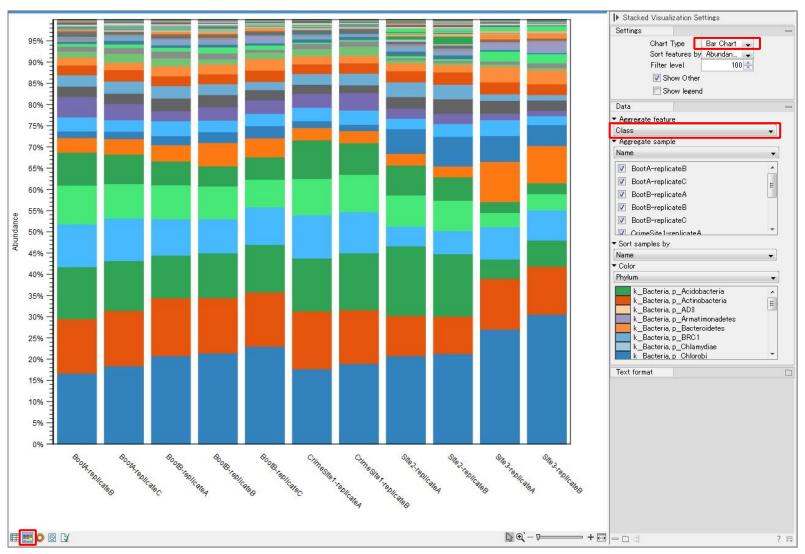
	y							
Input database size	Filtered databas	ise size	OTUs based	on database	De	novo OTUs	Tota	I predicted OTUs
99,	322	1,237		974		474		1,44
B								· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
Read summary								
Read summary  Number of reads	Filtered reads		e reads after Itering	Chimeric r	eads	Unique chimeric rea	ids	Reads in OTUs





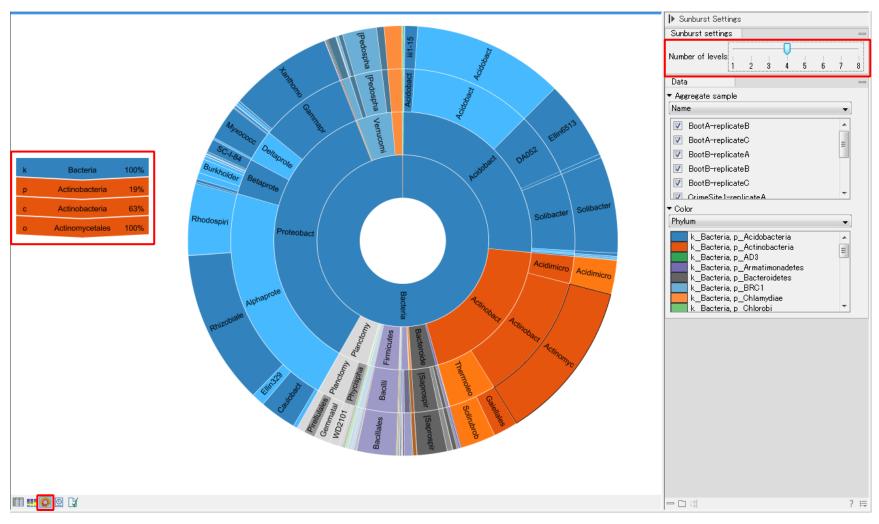
- 組成データのShow Tableアイコンから、サンプルごとの組成データをリスト形式で確認できる。
- Aggregate taxonomy項目から、界~種などのカテゴリー分類を切り替えることが可能。





- 組成データのShow Stacked Visualizationアイコンから、サンプルごとの組成データをグラフ形式で確認できる。
- グラフの種類、またカテゴリー分類の切り替えが可能。





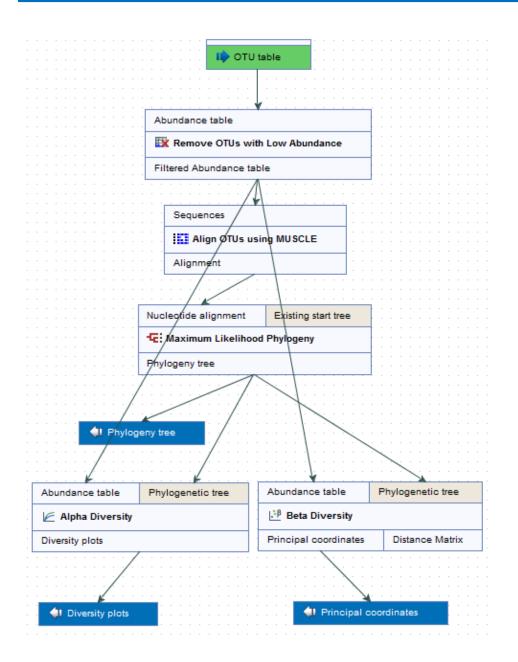
- 組成データのShow Sunburst editorアイコンから、サンプルごとの組成データをサンバースト図で確認できる。
- 表示するカテゴリーレベルの変更が可能。
- 任意の箇所にマウスカーソルを合わせると、組成比データが表示される。

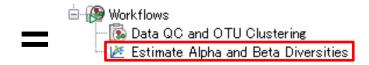


# 手順3.2次解析

## 2次解析の解析パイプライン







#### **Remove OTUs with Low Abundance**

・組成が低いOTUデータを除去する

#### Align OTUs using MUSCLE

・OTU配列データのアライメントを行う。

#### **Maximum Likelihood Phylogeny**

・アライメント結果から系統樹を作成する。

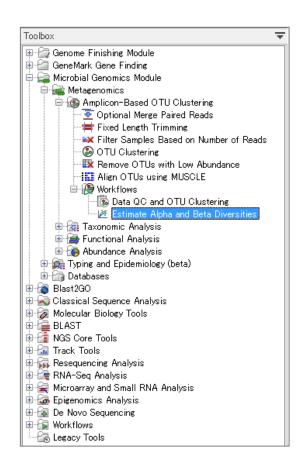
#### **Alpha Diversity**

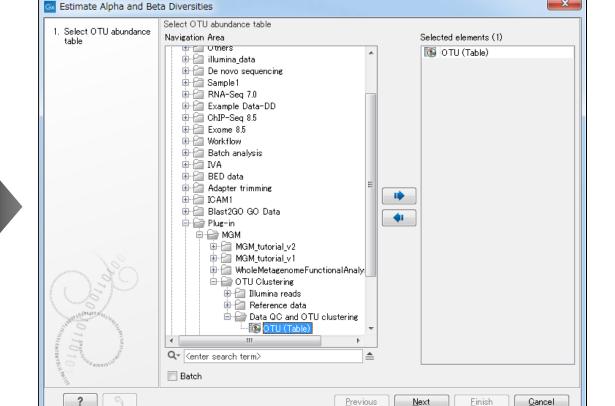
・アルファ多様性を計算する。

#### **Beta Diversity**

・ベータ多様性を計算する。

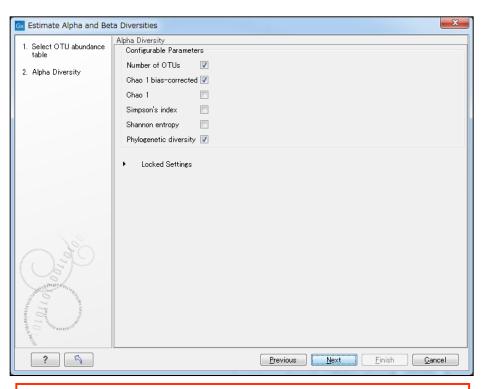






- 1. Estimate Alpha and Beta Diversitiesを選択してダブルクリック。
- 2. 組成データを選択。





- Gx Estimate Alpha and Beta Diversities 1. Select OTU abundance Configurable Parameters Bray-Curtis 1 2. Alpha Diversity **V** Jaccard 3. Beta Diversity Euclidean Unweighted UniFrac Weighted UniFrac Weighted UniFrac not normalized D 0 UniFrac D 0.5 UniFrac Locked Settings 9 ? Previous <u>N</u>ext
- Number of OTUs ~ Shannon entropy: アルファ多様性の計算 アルゴリズムを選択する。
- Phylogenetic diversity: 系統的多様性の計算を行う。

- Bray-Curtis ~ Euclidean: ベータ多様性の計算アルゴリズムを選択する。
- <u>Unweighted UniFrac ~ D 0.5 UniFrac:</u> 距離の計算アルゴリズムを選択する。



```
Estimate Alpha and Beta Diversities

GTU (Table) (Filtered) alignment tree

OTU (Table) (Filtered) (PCoA - Bray-Curtis )

OTU (Table) (Filtered) (PCoA - Jaccard )

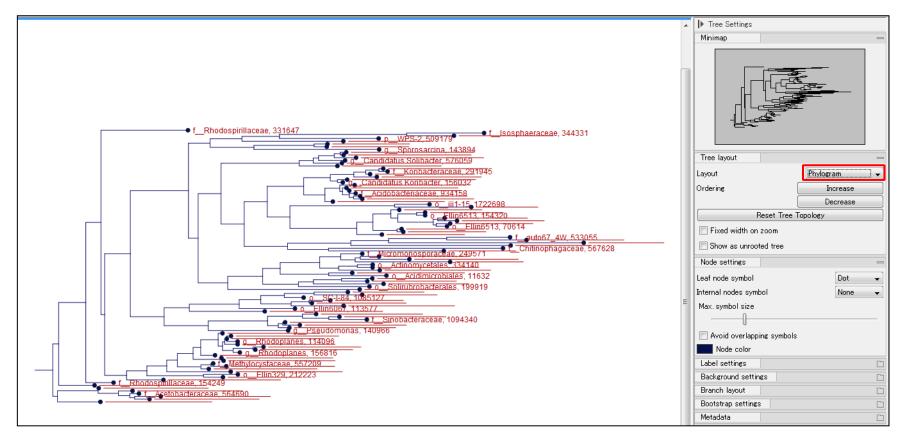
OTU (Table) (Filtered) (PCoA - Unweighted UniFrac )

OTU (Table) (Filtered) (PCoA - Weighted UniFrac )

OTU (Table) (Filtered) (Alpha Diversity - Number of OTUs)

OTU (Table) (Filtered) (Alpha Diversity - Chao 1 bias-corrected)

OTU (Table) (Filtered) (Alpha Diversity - Phylogenetic diversity)
```



系統樹データでは、サークル表示などのレイアウトの変更が可能。



```
Estimate Alpha and Beta Diversities

CTU (Table) (Filtered) alignment_tree

OTU (Table) (Filtered) (PCoA - Bray-Curtis)

OTU (Table) (Filtered) (PCoA - Jaccard)

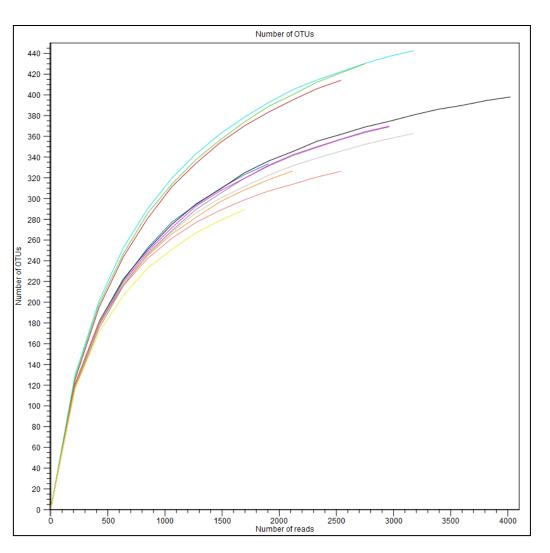
OTU (Table) (Filtered) (PCoA - Unweighted UniFrac)

OTU (Table) (Filtered) (PCoA - Weighted UniFrac)

OTU (Table) (Filtered) (Alpha Diversity - Number of OTUs)

OTU (Table) (Filtered) (Alpha Diversity - Chao 1 bias-corrected)

OTU (Table) (Filtered) (Alpha Diversity - Phylogenetic diversity)
```



アルファ多様性データをまとめたレポートが、選択したアルゴリズム別に出力される。



```
Estimate Alpha and Beta Diversities

CTU (Table) (Filtered) alignment_tree

OTU (Table) (Filtered) (PCoA - Bray-Curtis)

OTU (Table) (Filtered) (PCoA - Jaccard)

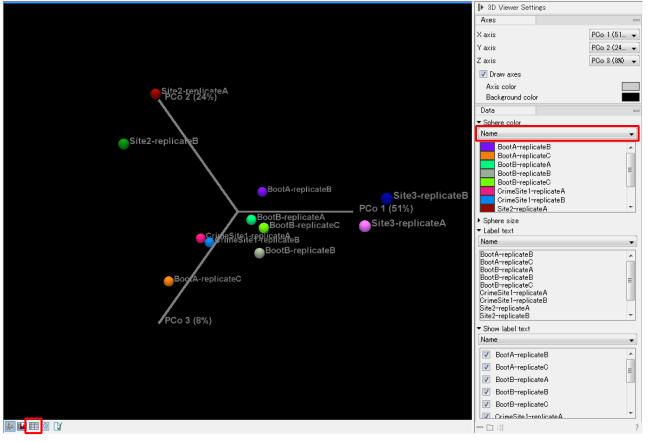
OTU (Table) (Filtered) (PCoA - Unweighted UniFrac)

OTU (Table) (Filtered) (PCoA - Weighted UniFrac)

OTU (Table) (Filtered) (Alpha Diversity - Number of OTUs)

OTU (Table) (Filtered) (Alpha Diversity - Chao 1 bias-corrected)

OTU (Table) (Filtered) (Alpha Diversity - Phylogenetic diversity)
```



- 選択した計算アルゴリズムごとに、ベータ多様性データが出力される。
- メタデータに基づいたラベルの表示分類や、テーブル表示への切り替えで、主成分の寄与度などを確認できる。



# 2. Taxonomic Analysis

## データ解析の手順



### 手順1: リファレンスデータの取得

● バクテリア、ウイルスなどのリファレンスゲノム配列データをダウンロード

### 手順2: 1次解析

- リード配列のクオリティチェック (アダプター除去、低クオリティ配列のカットなど)
- 宿主ゲノムデータの除去とTaxonomicプロファイリング

### 手順3: 2次解析

- サンプルごとの菌種組成データの統合
- ▼ アルファ多様性、ベータ多様性の計算



# 手順1. リファレンスデータの取得

## リファレンスデータの取得



- リファレンスデータとして、バクテリアやウイルスなどのゲノム配列データが必要となり、専用のダウンロードツールを使ってダウンロードできる。
- ダウンロードを行う際は、コンピュータがインターネットに接続されている必要がある。
- データ量が大きいので、コンピュータのハードディスク空き容量に注意すること。

#### 取得できるデータの種類

原核生物

• バクテリア

• 古細菌

真核生物

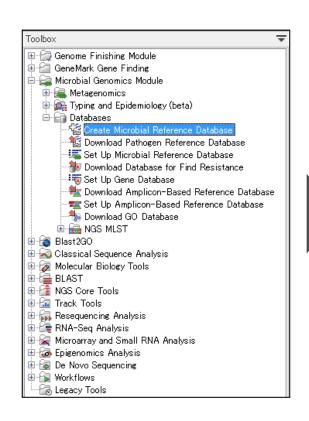
カビ

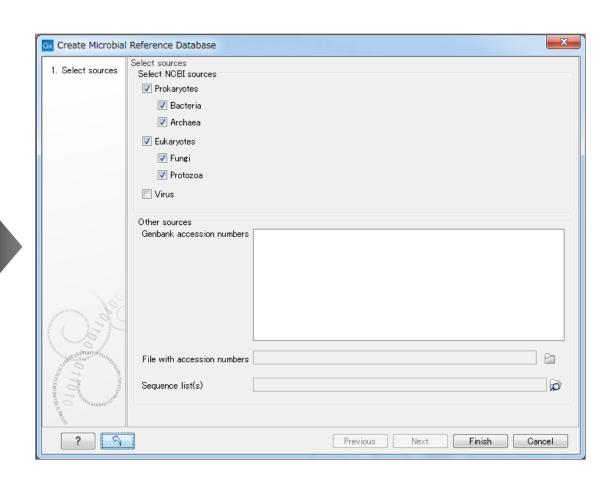
• 原生動物

ウイルス

## **Create Microbial Reference Database**



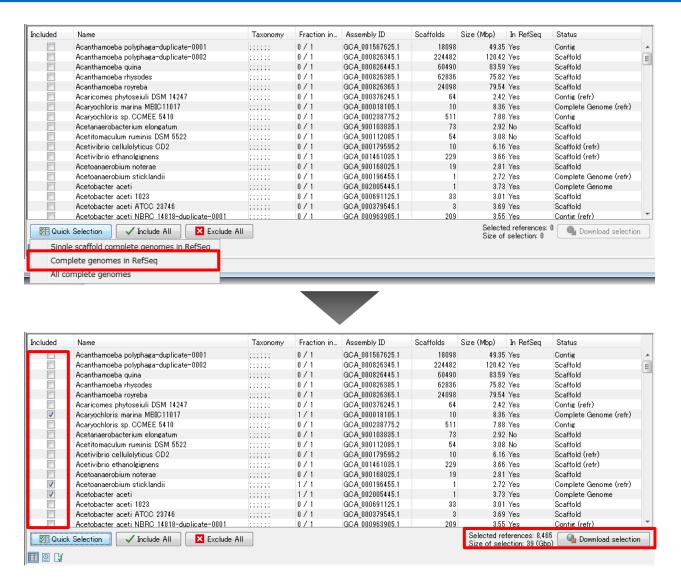




- 1. Create Microbial Reference Databaseを選択してダブルクリック。
- 2. ダウンロードするゲノムデータの生物の種類などを設定。

## **Create Microbial Reference Database**

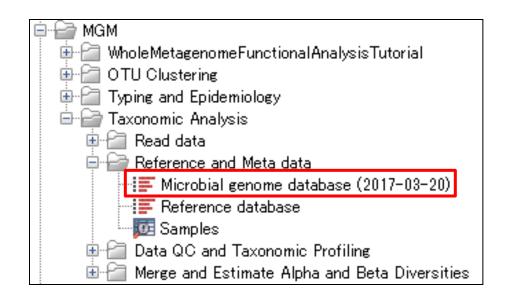




- 3. データの一覧が表示されたら、Quick Selectionより、ダウンロードするデータのカテゴリーを選択する。
- 4. チェックが表示されたデータと合計データ容量を確認し、Download selectionをクリックする。

## **Create Microbial Reference Database**





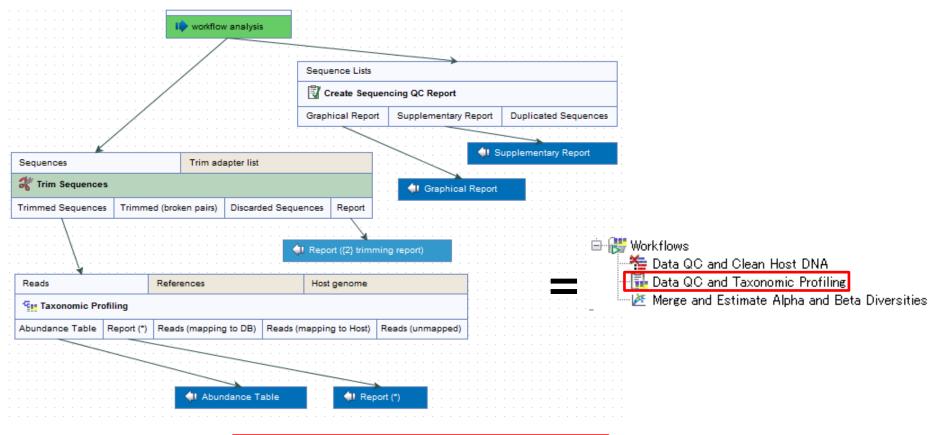
- 5. ダウンロードされたゲノムデータが作成される。
- \* ダウンロードには数時間かかることもあり、データベースの更新作業によって、ダウンロードが途中で中断されることもある。その場合は、再度実行し直す必要がある。



# 手順2.1次解析

## 1次解析の解析パイプライン





#### **Create Sequencing QC Report**

・リード配列データのQCチェック結果のレポートを作成する

#### **Trim Sequences**

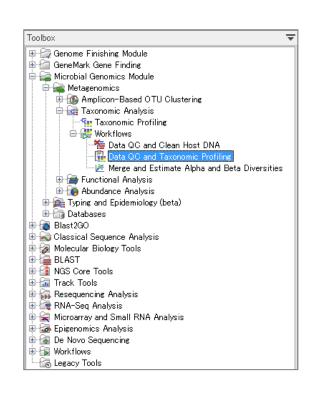
・アダプターの除去、およびリード配列のトリミングを行う

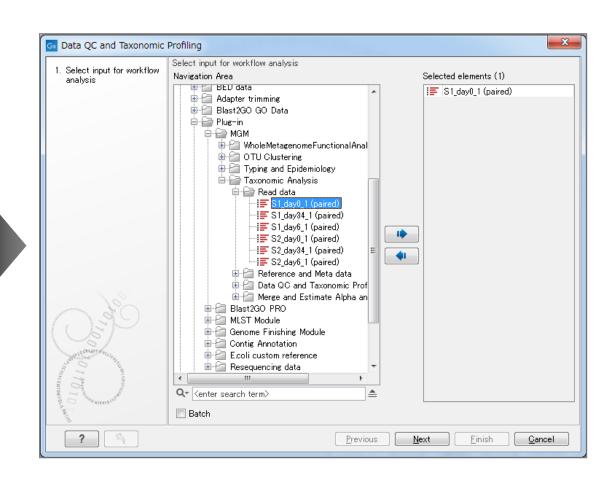
#### **Taxonomic Profiling**

・宿主ゲノム配列の除去と、菌種組成解析を行う

## **Data QC and Taxonomic Profiling**



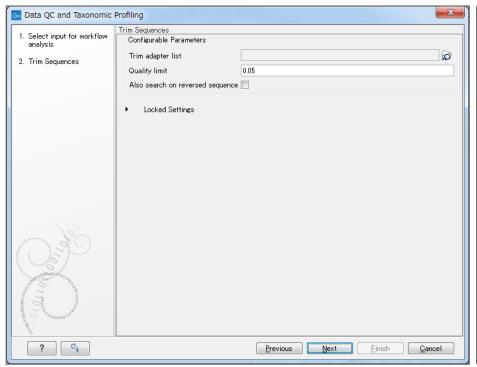


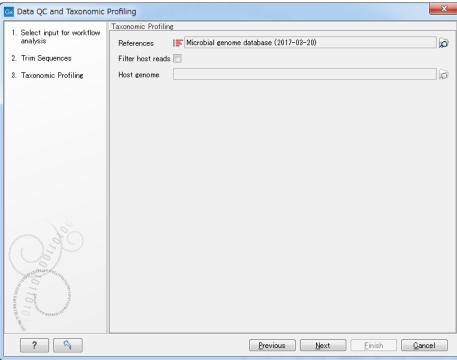


- 1. Data QC and Taxonomic Profilingを選択してダブルクリック。
- 2. リード配列データを選択。

## **Data QC and Taxonomic Profiling**



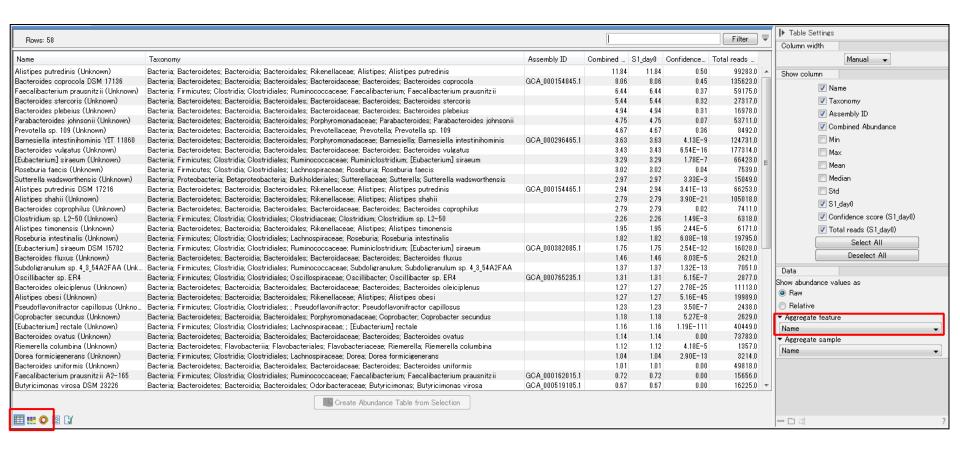




- Trim adapter list: アダプターリストデータを指定する。
- Quality limit: Quality scoreの信頼性の閾値を指定する。
- Also search on reversed sequence: リード配列のアンチセンス鎖からも、アダプターのトリミングを行うかを選択する。
- References: リファレンスゲノム配列データを指定する。
- <u>Filter host reads:</u> 宿主ゲノム配列データの除去を行うかどうかを選択する。
- Host genome: 宿主ゲノム配列データを指定する。

## **Data QC and Taxonomic Profiling**





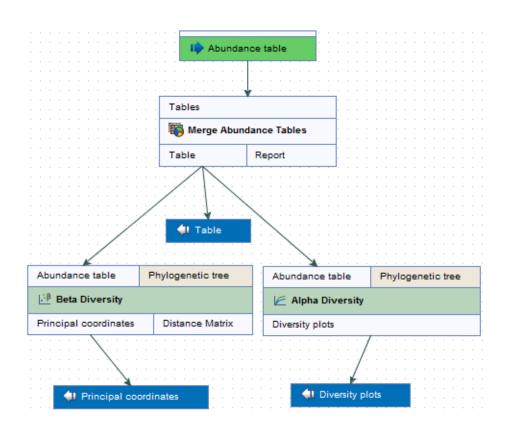
- Amplicon-Based OTU Clusteringと違い、各サンプルごとにデータが作成される。
- データの表示については、Amplicon-Based OTU Clusteringの場合と同じで、Aggregate taxonomy 項目から、界~種などのカテゴリー分類を切り替えたり、バーチャートグラフやサンバースト図での表示が可能。

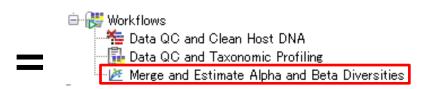


# 手順3.2次解析

## 2次解析の解析パイプライン







#### **Merge Abundance Table**

・各サンプルの組成データを統合する。

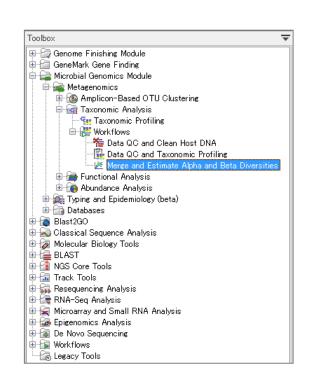
#### **Alpha Diversity**

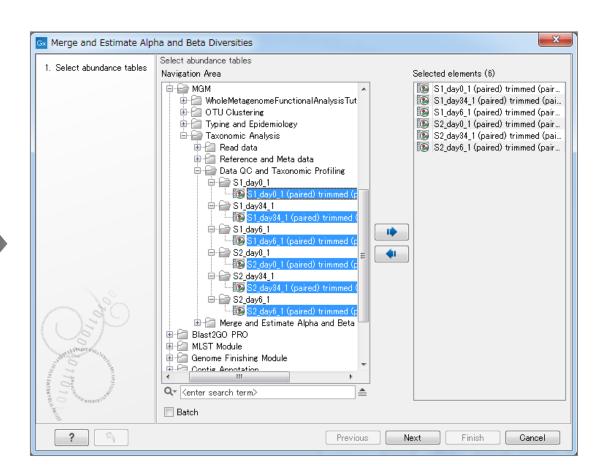
・アルファ多様性を計算する。

#### **Beta Diversity**

・ベータ多様性を計算する。



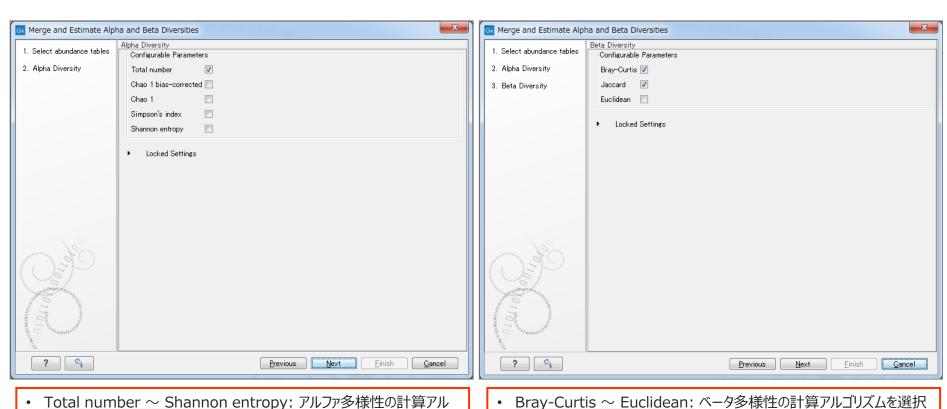




- 1. Merge and Estimate Alpha and Beta Diversitiesを選択してダブルクリック。
- 2. 組成データを選択。

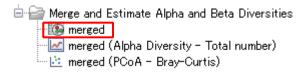
ゴリズムを選択する。

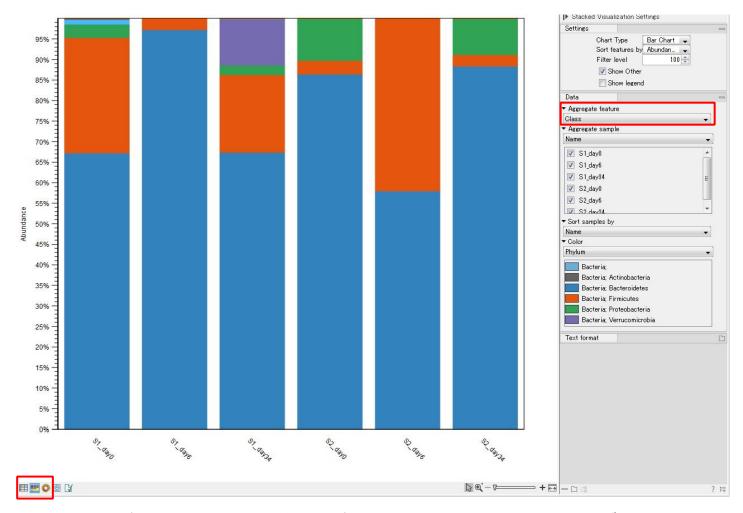




する。

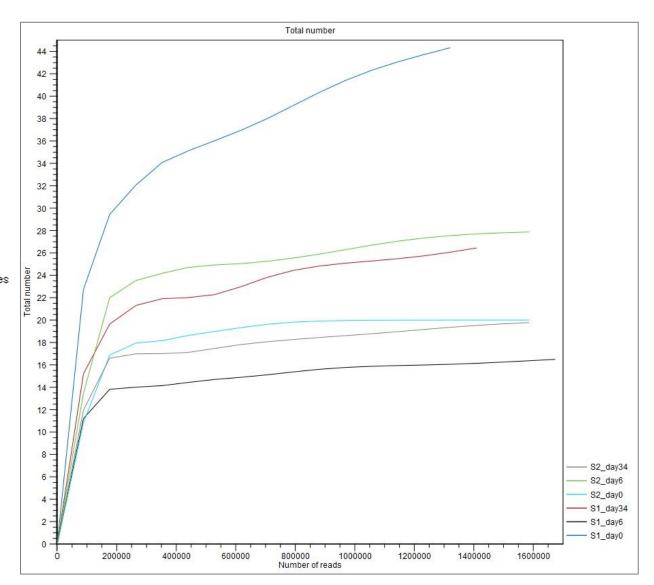


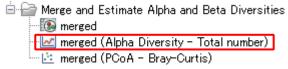




統合された組成データでは、界~種などのカテゴリー分類の切り替えや、バーチャートグラフやサンバースト 図での表示が可能。



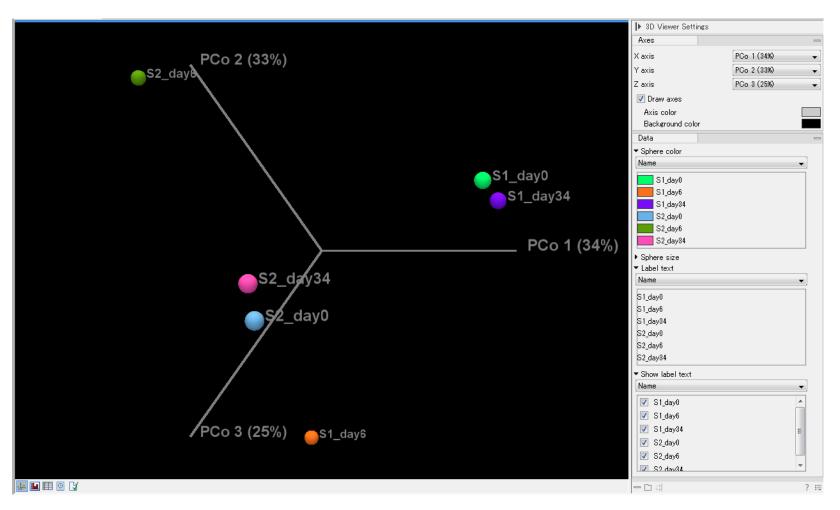




アルファ多様性データをまとめたレポートが、選択したアルゴリズム別に出力される。



```
in the Herge and Estimate Alpha and Beta Diversities
      nerged 🌇
     🚾 merged (Alpha Diversity - Total number)
      🕒 merged (PCoA - Bray-Curtis)
```



選択した計算アルゴリズムごとに、ベータ多様性データが出力される。



お問い合わせ先:フィルジェン株式会社

TEL 052-624-4388 (9:00 $\sim$ 17 : 00)

FAX 052-624-4389

E-mail: biosupport@filgen.jp